

電気新聞 連載

時評「ウエーブ」 第一回

いま、正す時

元世界銀行副総裁

シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー

西水美恵子

時評「ウエーブ」 第一回 今、正す時

人間は健康で幸せな人生を望む。しかし、そのためにどれだけの資源を費やすのだろうか。地球一個では足りない程使ってしまうえば、せつかくの幸福さえ持て続けない。

その効率を測る物差しの一つがハッピー・プラネット・インデックス（地球幸福指数）だ。英国のシンクタンク、新経済学財団が2年前に開発、178カ国別に測定した。各国の国民が抱く人生への満足度に平均寿命を掛け、生態学的地球資源活用で割って出す。

結果は「HappyがUn-Happy（不幸）」と手直しされた報告書の表紙に一目瞭然。程よい資源活用で国民が幸せに長生きする理想的な国はない。

アジアのトップはベトナムで世界12位。国民総幸福量を謳い自然保護に熱心なブータンの民は世界1、2を競う幸せ者だが、平均寿命がまだ短いからアジアの2位、世界では13位。

先進国は揃ってぱっとせず、なかでも特に悲しいのは日本。資源を使いすぎて長生きする国民が、それでも幸せとは感じていない。アジアの下位で世界第95位。

世界1位は大洋州の小さな島国バヌアツ共和国だ。続いてコスタリカなど中南米の数カ国と共にカリブ海域諸国が上位に並ぶ。特に小さな島国が優位で、報告書は学ぶことが多いはずと注目する。

そのカリブ海に浮かぶ英領バージン諸島を本拠にして4年になる。大小約60の島々から成り、あわせても小豆島の面積に足りない小さな島国。大きな世界地図でも芥子粒数個が散らばっている程度で、普通の地図に載っていない。

島に移り住んで以来、日本に帰って雨が降るたび「もったいない」と居たたまれなくなる。

英領バージン諸島に川はない。貿易風に乗って谷から谷へと渡る亜熱帯スコールは、情熱的にザーツと降ってすぐ止む。険しい山脈がどっぷり海に浸かっ

た島々のこと、雨水は急斜面を駆け降りて海に消える。海岸沿いの平地に海水湖はあっても淡水湖はない。井戸を掘っても真水は出ない。

島民は雨水を貯めて生活用水を確保してきた。昔から家屋は貧相でも貯水槽は立派な石造り。屋根と貯水槽を繋ぐ竹の雨樋が命綱だった。我が家にも2万リットルの貯水槽がある。たいそうな量に聞こえるが、日本の感覚で使えば、ひと月ともたない。

島民の節水態度はお見事。引越したばかりの私たち夫婦を案じて、わざわざ節水の英知を伝授してくれた。「水は最低2回使いなさい」と真面目顔。雑巾がけの水は庭木に。食器洗いの水は流しの掃除に。皿洗い機は大量の節水になるから、決して贅沢ではないとも教わった。下水は自家処理して庭を潤すように設計されている。

「流しっぱなしをしたら逮捕されるぞ」と笑い、シャワーの使い方まで教えてくれた。「まず体を濡らして栓を止め、石鹸を使ってからまた開くこと」。お風呂より海に浸かったほうが肌にも体にもいいと熱心に勧める。確かに虫さされや傷があつという間に治る。

近年、海水を淡水化する処理工場ができて上水道が完備した。それでも島民は雨水に頼り続ける。水道は干ばつの時のバックアップにしなさいと言われた。脱塩処理をしても塩分が相当残るから、金物に錆びがくる。洗濯機などがすぐ壊れてしまうからだ。

島の人々は雨と来客を神の恵みと歓び、客には必ずよく冷やした水を出す。一滴たりとも無駄にせず、思い思い工夫をこらして濾過殺菌した水だ。心のこもる天水は甘露。幸せを呼ぶ。

英領バージン諸島の国民総生産量は1人当たり年間250万円前後にすぎない。しかし雨を歓び節水に尽くす島民は、日本人が想像もできない幸せに恵まれている。

お金だけで幸福は買えないのに主流政策思考は経済成長に偏りすぎる。今、正す時が来ている。

著者紹介

西水 美恵子（ にしみず みえこ ）

1975年、米ジョンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了後、プリンストン大学助教授（経済学）。80年に世界銀行入行。97年、南アジア地域担当副総裁に就任。2003年に退職。現在は独立行政法人経済産業研究所コンサルティングフェロー。07年に、シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー就任。著書に『貧困に立ち向かう仕事』。

著者へのご意見やご感想は、下記アドレスにお送りください。

個人メールアドレス nishimizu@sophiabank.co.jp

本稿は、西水美恵子氏が、二〇〇八年四月二十八日付の電気新聞に、寄稿したものです。

著作権は、著者に帰属しますが、配布は自由に行っていただけます。